

# 西光寺だより

第一八〇号 令和七年八月一日発行

連日暑い日が続いております。水分補給と熱中症対策に聞き飽きるほど聞いていますが、皆さん充分気を付けて下さい。

八月のことは八月に考えましょう、と言いましたが考えることは何もありません。暑さに負けずといいますが、勝とうと戦うのではなく暑さとともに仲良く、ゆったりと、身体に無理のないよう過ごしたいものであります。

この度、梵鐘の撞木の紐がちぎれ、破損しました。

撞木とはお寺の鐘を撞く棒のことです。今は違いますが、昔は棕櫚（しゅろ）の木を使用していました。棕櫚は真っ直ぐな繊維が集まったような構造で、鐘を撞いた時にやわらかく良い音が鳴り、水に強く丈夫で長く使えるからだそうです。なので棕櫚の木の幹の断面には年輪はありません。

人間、ケガや負傷しないとその場所のありがたみが分からないものであります。撞木の破損をとおして今、梵鐘のありがたみを改めて知り、学ぶきっかけにしたいと思います。あとの◆先月の報告◆にもご報告させていただきます。

この梵鐘の起源としましては二つあるとされ、

インドで釈尊の御在世当時すでに存在する仏具であって、仏滅後一切経の結集の折に、この鐘を鳴らし大衆を集めたというものと、

インドにはそういう仏具はなく、『阿含経』の中の、阿難尊者が、講堂に昇つて犍椎（かんち）を撃つて食事や会合の時刻を報知する定めの鳴り物があり、それが中国、朝鮮へと伝わる間に、釣り鐘になったというものがあるらしいです。

いずれにしましても、梵鐘の起源は、仏教の原子教団にその源を発し、その用途は、時を報ずるためであったことから考えてみますと、現在、法会行事の時刻を報知する仏具として大切に使われています。また、この梵鐘の功德の広大を説かれているものもあり、昔、祇園精舎に於いて、病僧が命終わらんとする時、無常院の鐘を鳴らしたことが伝えられており、鐘の音につられて命終に悩める心が、煩惱の縛りよりのがれ得られる心地するとあります。

梵鐘と煩惱と聞くと除夜の鐘の百人を思い出します。

この起源は、『禪林象器箋』に古来俗説に百人煩惱の睡を醒ますと  
いうを破して中国の世典にいわゆる十二月（一月〜十二月）二十四気  
（春夏秋冬を六つに分け）七十二候（二十四をさらに分けたもの）を  
合わせて百人（二十二二十四七十二）を成ずるものとして考証して  
いるようであります。

今年の除夜の鐘はどんな音を響かせ、私たちのもとに届けてくれるのか色々な思いを感じながら味わいたいものであります。

そして最後に、何気に聞かせていただく鐘の音に尊厳な意義を見出したいものであります。

あの梵鐘の声こそゴーンゴーンと御恩の中で生きさせていた  
くことを教える説法なりと心得たいものであります。

梵鐘の声聞きたびに御恩の中で生きる幸せを思うことでもあります。

ああ無常を知らず警鐘の響き、

御恩を知らず梵鐘の声

合掌



## ◆先月の報告◆

六月に西光寺鐘樓の撞木の修理が無事終えました。

五月の総会の時に皆さんからご承認を受け、少なくとも七〇年は破損することがなかった撞木でしたが、経年劣化のためつるす紐が切れ、破損してしまいました。この度修理することとなりました。

茨木にある浜屋さんのおかげで無事完成いたしました。

今年の行事法要や除夜の鐘には新たな気持ちで撞けることと思えます。

そして皆さんのおかげでこうして修理が出来ましたこと、感謝の思いであります。

本当にありがとうございます。



## ◆八・九月の行事◆

・八月 十五日 (金)

孟蘭盆会法要

午後六時～

西光寺本堂

※毎年九月半ばに行っていました大谷本廟墓参は、

夏の残暑が厳しく前々からご提案がございまして、

一〇月半ばに実施したいと思えます。また詳細は

ご報告いたしますのでよろしくお願いいたします。

